

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271500821
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホームまさき
所在地	長崎県北松浦郡江迎町猪調免1062-3番地 (電話) 0956-66-9388
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年 11月20日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤0人, 常勤換算14.6人

(2) 建物概要

建物構造	木 造 造り	
	1 階建ての ～ 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円
敷 金	有 (円) ㊟		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ㊟	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 87.4 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	潜竜徳田循環器科内科整形外科病院、福田歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺を民家に囲まれ、静かな環境の中にあり、おもいやりの理念のもとに、明るい雰囲気の中で利用者は日々過ごされている。利用者は地域住民の一員として地域の様々な行事等に参加し、事業者も利用者の参加を積極的に支援している。その他、事業所が積極的に行っている取り組みとして、利用者に食事を楽しんでもらうということが挙げられる。新鮮な材料を使用し、管理栄養士のアドバイスも受け、おいしい食事を提供している。医療面においては、急変時等に母体病院から協力が得られる体制があり、家族等に安心を与えている。さらには、利用者のホームでの生活ぶりを写真で収めたアルバムをつくり、退所時等に家族へ渡している。家族会もでき、家族会の意見を検討し、改善につなげる取組を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題について全職員で話し合い、改善に向けて検討を行ったが、職員の研修受講体制の整備はまだ職員の研修参加が少ない。市町村との連携については、運営推進会議で町役場の職員とも交流が多くなったが、推進会議以外での連携は今後の課題となっている。掲示物は、季節感のある掲示に見直し、危険物である洗剤等の保管場所は、場所を変更する事で改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は記入用の評価票を職員全員に配り全体で取り組んでいる。職員が日頃のサービスについて、振り返って考える良い機会として有効的に活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、グループホームの近況等を報告し、家族等の参加者からの質問、意見について討議している。討議の結果を活かすように、実現に向けて努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の家族全体の意見とすることで、意見等を言いやすい状況が生まれることを期待して、家族会を立ち上げている。家族会から出された意見、要望について実現に向けて検討を行っている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の夏祭り等の行事や敬老会への参加、事業所の消防訓練時に近隣の住民に参加を呼びかける等、地域の一員として認識してもらえるように積極的に働きかけている。また、地域住民に対して講習(AED)も実施している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念及びグループホーム独自で作らあげた理念があるが、地域密着型サービス事業所を意識した理念となるように、職員にも募集をかけ現在、見直しを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については会議等で全職員で確認を行うほか、ホーム内の誰でも見やすいところに掲示されているので、いつでも確認できるようになっている。管理者と職員は、理念の共有はできているが、具体的に実務への落とし込みまでには至っていない。	○	掲げられた理念を実践することは、利用者に対してどういうサービスを行うことなのかグループホーム全体で検討することを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、文化祭、運動会等の行事、敬老会に参加し、地域との交流に努めている。また、事業所の消防訓練時には、近隣の住民に参加を呼びかけ、地域の一員として認識してもらえるように積極的に働きかけている。消防訓練の時に、地域住民に対して講習（AEDの使い方）も実施した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の改善項目について全職員で話し合いを行い、改善に向けて検討を行っている。自己評価は職員全員に記入用の報告書を配布し、意見を集約した上で作成されている。また、自己評価を通して、改善点について話し合いがなされており、自己評価及び外部評価の意義を理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者、利用者の家族、町役場の職員が参加し、2ヶ月に1回開催されており、議事録も作成されている。ホームの近況、外部評価の結果等を報告し、参加者から意見を出してもらい、出された意見について検討を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村には、ケアプラン等の相談、近況の報告に出向き、顔なじみの関係は出来ている。運営推進会議以外には、具体的な連携体制を作るには至っていない。	○	市町村と協力し、中学生の職場体験の場所、町職員の研修場所として事業所を提供することを検討している。今後実現に向けた取組を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	殆どの家族が利用料の支払いに月に一度は来所されるため、その際に、金銭管理の報告、近況報告等を行っている。また、必要に応じて、電話連絡は行っている。ホーム内に行事等で撮った写真を掲示しており訪問時には見てもらっているが、定期的な報告とまではなっていない。	○	行事等に参加している時の利用者のいきいきとした表情やホームでの暮らしぶりを定期的に知らせるために、広報誌等を作成し活用することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、さらに家族会も立ち上げ、家族等からの意見、不満、苦情の聴取に努めている。家族会から出された意見等については実現に向けて検討を行っている。また、行政機関やその他の受付機関による苦情等の解決の仕方を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代は引継期間を設けている。新しく採用した職員に利用者の性格、趣味等、介護時の注意点等を説明し、利用者の生活に支障が起きないように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開催場所、勤務の状況、費用等の理由により、計画的な研修スケジュール立案までには至っておらず職員の研修参加が少ない。また、母体病院が主体で行われる勉強会を受講し、利用者に関連する医療等の知識について学ぶ機会がある。その内容はミーティング、全体会議で報告を行っている。	○	研修受講については、研修内容の選別、勤務体制の調整、報告の方法において工夫をし、積極的に取り組んでいく事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同業者はいるが、管理者、職員間で勉強会や見学会等交流する機会がなく、地域の介護に関する情報等をサービスに活かす取り組みができていない。	○	事業者の会を発足へ向けて町に呼びかけるなど、町ぐるみで地域全体のサービスの質の向上につながる取り組みを期待する。また、市町村を仲介とした同業者との交流を行う動きがあり、ぜひ実現し、サービスの質の向上に取り組まれる事を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者によってその対応の仕方は様々であるが、利用する前のホームの見学や日中をホームで過ごし、ホームの雰囲気慣れてもらうことからはじめ、利用者の不安を取り除く事、利用者を理解する事に努めている。また、利用者がなかなか馴染めない場合は、家族等と相談し一時帰宅などの対応をしながら、ホームでの生活への移行を支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や利用者との会話を通して、利用者の気持ちを理解するようにしている。食事の準備、後片づけの他にも、生花のアドバイスしてもらうなどともに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日頃交わす会話や家族等からの情報を通して、利用者の希望、意向を把握するように努めている。利用者の意思表示が困難な場合は、家族等から聴き取った利用者の性格、生活歴を考慮して把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成にあたっては、本人、家族等、スタッフの意見、アイデアを聞いている。作成した介護計画書は家族等へ説明し、署名、押印してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に一度見直しが行われている。利用者に大きな変化があった場合は、随時、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族からの要望があれば通院介助、買い物、外出、外泊、理美容院の支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどのかかりつけ医は母体の医療機関であるが、利用者や家族等の希望があれば利用前からの他の医療機関の受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体が医療法人のため、重度化した利用者や、終末期を迎えた利用者をグループホームで受け入れることは基本的にはない。	○	今後、家族等から、利用者にホーム内で終末期を迎えさせてあげたいという要望も出てくる事も考えられる。そのためには終末期に関する取り決めや契約書の整備、スタッフの対応などの具体的な検討をされる事を期待する。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳の維持、プライバシーの確保に気を配っている。利用者の個人情報の守秘義務については、職員から誓約書を提出してもらい、周知徹底を図っている。また、ミーティング等で、利用者のプライバシーを損ねるような対応をしていないか協議している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、起床など大体の時間帯は決まっているが、事業所側の都合を優先させるのではなく、本人の希望、ペースで生活できるように対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は予め決まっているが、利用者の好みでないものは変更したり、時には利用者の家族等が持ってきた野菜等を利用するなど柔軟に対応している。食材は新鮮なものを使用しており、利用者もおいしそうに食べている。職員は利用者と一緒に同じものを食べながらサポートを行っている。食事の配膳、かたづけ等は利用者の状況に応じて手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日、時間帯は決まっているが、利用者の希望を優先して、柔軟な対応を行っている。入浴の際の利用者の羞恥心、プライバシーについても配慮がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントの記録から、利用者の趣味等を把握し、裁縫や生け花、コーラス等利用者が今までやってきた趣味等を活かした活動を生活に取り入れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事参加のための外出だけでなく、グループホーム付近の散歩や買い物など車椅子の利用者も含めて、日常的な外出を支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。玄関の見通しがよく、職員が気を配るなどし、見守る体制を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行っており、夜間を想定した訓練も行っている。訓練には地域の人々へも参加を呼びかけ参加してもらっている。また緊急時のマニュアルを備えており、消防署との協力体制もできている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の献立は母体病院の管理栄養士がカロリーや量を考慮した上で作成されており、栄養のバランスがとれたものになっている。また、個人ごとに摂取した食事量、水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、玄関に季節の草花や置物が飾られている。音や光の強さも適切である。ホーム内の家具は家庭にあるようなものを使い、家庭的な雰囲気できつろげるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自分の居室で落ち着いて過ごせるように使い慣れたもの（布団等）の持込をホーム側からすすめている。また、利用者が制作した手芸等の作品、家族の写真が飾られている。		

※  は、重点項目。